



▲大中遺跡まつりにて

見事に紅葉した木の葉が、舞い落ちる季節となりました。さわやかな秋日和、町内では多くの行事や大会が開催されました。

■10月28日「町制施行45周年記念式典」が行われました。ご臨席いただいた皆さまありがとうございました。また、表彰を受けられた皆さまおめでとうございます。

本町は明治22年から70余年にわたって親しまれてきた「阿閑村」から、昭和37年に「播磨町」となりました。町の文化遺産である大中遺跡が発見されたのも45年前でした。大中遺跡を中心に、播磨町に残されている自然や資源を活かし、次世代に大切に引き継いでいきたいと思っています。播磨町の子どもたちが生まれ育ったふるさとを誇りに思い、多くの方々に「やさしさと魅力」を感じていただけるような「まちづくり」を進めていきたいと思っています。

■11月3日「大中遺跡まつり」が開催されました。今年は県立考古博物館が開館し、同時に全国遺跡まつりも開催され、例年を大きく上回る参加者で賑わいました。これからも多くの人々に愛され、全国に誇れる「まつり」として、回を重ねていくと嬉しいです。ボランティアや関係者の皆さまありがとうございました。

■ライマ市から7人の訪問団が来られました。南部コミセンでの歓迎会、古代人の衣装を着て大中遺跡まつりへの参加、町内のご家庭へのホームステイなど播磨町の秋を心から楽しまれたようでした。言葉での意思疎通は苦手でも、笑顔に国境はないと感じた国際親善でした。「see you again」

■隣の市で小さな子どもが犠牲になる悲しい事件がありました。播磨町でもこれまで以上に広報車でのパトロールを強化し、地域や関係機関にも呼び掛けて子どもたちの安全確保に努めています。また、まちの皆さま方の「見守り」も是非お願いいたします。

播磨町長 清水ひろ子

東播磨ふれあいネット (BAN-BANテレビ 11チャンネル)
播磨町・稲美町・加古川市・高砂市の情報番組です。

12月の放送予定 (収録場所 加古川市)

前半 11月26日(月)~12月9日(日)

- 特集 AED講習会を出前します (播磨町)
- ふれあいインフォメーション (各市町からのお知らせ)

後半 12月10日(月)~23日(日)

- 特集 プラネタリウムで わらべ歌? (加古川市)
- ゆうゆうライフ (稲美町)

放送時間 (第1・3月曜日の①以外は再放送) 30分番組

- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 月・水・金 | ①午前10時 | ②午後5時 | ③午後10時 |
| 火・木 | ①正午 | ②午後7時 | |
| 土・日 | ①午前9時 | ②午後6時 | ③午後11時 |

わんぱくはりまっ子



岸本 和佳奈ちゃん(3歳) 野添 和磨くん(3歳)

いつまでも仲良く、
思いやりのある子に育ってね
パパ・ママより



このコーナーに出ていただく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(未就学児) 広報担当まで電話をお願いします。

朝晩冷え込むようになってきたと思ったら、紅葉が始まり、早くもクリスマスイルミネーションがとるところも出てきました。もう11月も後半、今年も残り1か月です。私にとって、企画グループに所属になった昨年10月から、あっといふ間の1年でした。このように少しでも広報作成に携わったり、様々な行事に参加したりする機会も増え、今までにない経験をさせていただき充実した毎日でした。この広報はりまも、取材や執筆、情報・写真の提供から配布に至るまで、多くの方々のご協力によって、皆さまにお届けできているのだと実感しています。また、広報についてご意見をいただくこともあります。ありがとうございます。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。(大)

楽屋裏

全国から健脚自慢のウォーカーがやってくる「第18回加古川ツデーマーチ」が11月10日(土)、11日(日)に行われました。播磨町は支援町として、30キロと40キロコースのチェックポイントを大中遺跡に設けています。(スタートゴール地点は加古川市役所) 2日間の延べ参加人数は9千800人、そのうち大中遺跡を含むコースには、千380人が参加しました。



▲チェックポイントは博物館の中

秋空の中、9千800人が軽快に播磨路を歩きました

11月1日(木)から5日(月)の5日間、姉妹都市アメリカ・ライマ市から、ライマ姉妹都市協会の訪問団7人が来訪され、5つの家庭に分かれてホームステイをするなど交流を深めました。2日、訪問団は播磨南中学校で文化祭を参観し、生徒からインタビュウを受けるなど楽しいひと時を過ごした後、加古郡リサイクルプラザで紙すきを体験。役場を訪問後、夜には播磨町国際交流協会主催の歓迎会に出席して、100人を超える参加者と交流しました。翌日は大中遺跡まつりへ。ライマプースで子どもたちとクイズやクロリティを一緒に楽しんだり、貫頭衣を着て古代パレードに参加しました。



▲楽しいクロリティ

4日をそれぞれのホストファミリーと過ごした訪問団は、5日朝、名残を惜しみつづ帰国しました。メンバーの一人は「本当にすばらしい時間を過ごすことができ、播磨町の方々の親切に感謝します。これからもこの友好の輪が、ますます広がっていくことを望みます」と話していました。

全国の遺跡公園が結集 大中遺跡まつりに1万5千人の賑わい

大中遺跡まつりが、11月3日(土)に催されました。県立考古博物館の全国遺跡まつりとの共催もあり、例年より多い人でにぎわいました。ステージや古代体験、模擬店などに加え、全国の遺跡公園からの展示や体験、博物館の展望台に登るなどいつもよりも楽しみの多い祭りになりました。



▲火おこし



▲ムラ人の長い列がパレードしました



▲いつの時代も元気がいちばん

親子で楽しむ町内の文化財 パートII

9 古田の永力丸漂流記念碑

今月は古田の正願寺にある「永力丸漂流百五十年記念碑」を紹介いたします。ここには、1850年、永力丸に乗っていて漂流したジョセフ・ヒコを含め、17人の乗組員が、当時のアメリカの新聞に描かれた姿を、碑に刻んでいます。



▲今、私たちに語りかけてくる

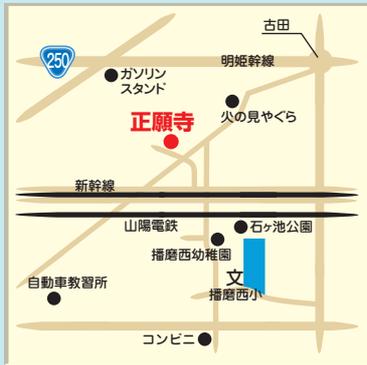
「歴史の宝宝箱」と言われている播磨町。町の面積は狭いけど、文化財の数は多く、少し歩けばそこかしこに、地域の人ひとが昔から大切に受け継いできたものがあります。そのような街角の文化財を紹介していきます。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000

「クイズ」

では、当時、この姿はどのようなにして新聞に描かれたのでしょうか。

- ① 一人ひとりを、新聞社にいた画家が描いたのを基にした
- ② 顔だけのスケッチを基に、服などは他を参考にして絵にした
- ③ 一人ひとりを写真に撮ったのを基に絵にした



土山から別府に向かう古くからの道を西へ向かいます。懐かしい火の見やぐりをさらに西に行き、新幹線の手前まで来ると、北側に街道を見守るように正願寺があります。

参門を入り、右側に一つの記念碑が見えてきます。御影石でできた高さ187センチもある石碑です。「怒濤を超えた男たち」と力強い筆が碑を語っています。さらに、そこには救助された17人の永力丸の乗組員が描かれています。この絵は17人が漂流の後、サンフランシスコで一人ひとりを写真に撮り、それを基に描かれたものです。写真の何枚かは、今、日本で保存されています。一人ひとり、ゆっくりとながめると、彼らが当時を語りかけてくるようです。

ジョセフ・ヒコはもちろん、ここに描かれた17人はその後、江戸から明治へと変わる時代の中で、様々な活躍をしています。その中で清太郎たちが姫路藩のもとで、洋式帆船を作ったことも忘れてはいけません。今年、地域の歴史研究グループによって、清太郎たちの作った「速鳥丸」の進水式が行われた場所や式典図がわかりました。あらためて当時の心意気を感じることができます。



●クイズの答 ③ 一人ひとりを写真に撮ったのを基に絵にした

町の人口 11月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)
34,361人(+58人) 男...16,833人(+44人) 世帯数...13,285(+45)
女...17,528人(+14人)

